

第51回 九州医療ソーシャルワーカー研修会 おおいた大会
ワークショップ・中堅者研修についてのご案内

おおいた大会では2日目にワークショップ（シンポジウム）および中堅者研修を開催致します。
たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

<ワークショップ>

◇A会場 「医療ソーシャルワークの実践をつかむ

ークライアントに立脚した価値・視点・方法からの検討」

講師：林 真帆 氏（別府大学文学部人間関係学科 教授）

MSWが日々行うクライアントへの支援。その実践に依拠するものは何であるか、なぜ我々は日々個別性の高い支援を行っているのか。本研修では、一つの実践事例を講師と共に読み解きながら、MSWの価値・視点・役割・方法を理論的に分析し、明日からの医療ソーシャルワーク実践への力を導き出していきます。

※原則、実務経験3年目までの方を対象としています。

本研修は「事例検討会」ではありません。

◇B会場 「リーダーシップとは何か～人材育成の秘訣を学ぶ～」

講師：江口 美和 氏（大分大学医学・病院事務部総務課安全衛生係

保健師・衛生管理者）

在院日数の短縮、医療と介護の連携等の医療を取り巻く時代の変化は、所属組織におけるMSW採用枠を広げていますが、一方でMSWの離職増加も大きな課題となり、管理を担う立場のMSWに人材育成が問われるようになりました。本研修では、産業カウンセラーとして活躍された講師より、20代・30代・40代等それぞれの世代特徴を学び「管理部門として人を育てる秘訣」を理解していきます。

※業務管理を担うリーダー的立場のMSWを対象としています。

◇C会場 「相談援助職の記録の書き方 ～短時間で適切な内容を表現するテクニック～」

講師：八木 亜紀子 氏（福島県立医科大学放射線医学

県民健康管理センター 特命准教授）

クライアントや家族の個人的な情報を知りえるMSWとして、クライアントの利益や組織運営のために、どのような記録をどこに残すかが重要になってきます。記録とは「誰にむけて」「どのような内容を」「どのような表現を用い」行うべきなのか。高い客観性と専門性にむけた記録の方法を学びます。

◇D会場 シンポジウム「地域包括ケアシステム MSWに求められる役割とは何か」

シンポジスト： 田井 祐二 氏（大分県高齢者福祉課地域包括ケア推進班 主事）

長松 宜哉 氏（社会医療法人関愛会 理事長）

佐藤 浩二 氏（社会医療法人敬和会

法人統括リハビリテーション管理部長）

船田 茂 氏（医療法人帰巖会 帰巖会みえ病院 介護事業部長）

早坂 由美子 氏（厚生労働省医政局地域医療計画課）

2025年問題を前に国は、地域包括ケアシステムの構築に向けて大きく動き始めました。高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するための包括的支援、サービス提供体制構築に向けて、国や多職種はMSWにどのような期待をしているのか、多分野のシンポジストとともに議論していきながら、MSWが果たすべき役割を導きだしていきます。

<中堅者研修>

テーマ：「MSWの“心技体”を学ぶ」

講師：小原 眞知子 氏（東海大学健康科学部社会福祉科 教授）

本研修は、実務4年以上15年未満の現任者を対象とした、九州医療ソーシャルワーカー協議会教育研修部会との共同企画です。支援アプローチやアセスメント方法等（技）のみならず、MSWとしての使命や姿勢等（心・体）についても学び、人材育成を担う中堅者として、対人支援職の専門性を追求していきます。

※中堅者研修受講者は、大会1日目の特別講演と基調講演の聴講が必須となります。

ワークショップ・中堅者研修ともに大会2日目の9：30～12：00を予定しております。参加を希望される内容について「大会参加申込書」の「ワークショップ・中堅者研修」欄にお間違えのないようご記入下さい。